

就職に強い、九州工業大学の教育活動と産学連携

多様な教育活動 世界的にも評価 日本産業界に寄与した優秀な技術者を数多く輩出している九州工業大学の特色などについてお聞かせください。

尾家 明治時代、炭鉱業で財を成した安川敬一郎氏が私財を投じて開学した歴史ある

工業大学で「明治専門学校」が前身です。昨年公表された「THE世界大学ランキング」(日本版)で日本の全大学中28位にランクインするなど、世界的にも評価されています。工業系の大学ですので、産業界との連携は非常に良好な関係を保っており、特に就職率についてはほぼ100%で、それを継続しています。

背景には、本学の教育活動への高い評価、卒業生の活躍実績に加え、同窓会組織「明専会」による明専奨励や明専スークなどの支援があります。

「広島県」出身の網岡相談役がなぜ九州工業大学を志望されたのでしょうか。

網岡 高校の先輩に勧められたのがきっかけですが、まだまだ1967年に九工大に



トヨタ車体株式会社相談役 網岡 卓二(あみおか たくじ)氏
1949年広島県生まれ。1971年九州工業大学工学部金属加工学科卒業後、トヨタ車体株式会社入社。2008年代表取締役副社長、2010年代表取締役社長、2014年代表取締役会長を経て2017年相談役に就任。2016年11月藍綬褒章受章。

世代や企業の垣根を越え交流を 網岡氏

福岡県内に3キャンパスを有し、2学部3大学院で約5600名の学生が学ぶ国立大学法人九州工業大学。世界的レベルの研究活動推進、同窓会組織「明専会」の協力によるキャリア教育などが特徴とされ、その取り組みは教育、研究活動に関する世界的な指標評価においても高く評価されている。九工大の教育活動や研究分野での産学連携、企業と大学をつなぐ「明専会」の存在意義や役割などについて、尾家祐二学長と、同大の卒業生で「明専会」中京支部支部長を務めるトヨタ車体株式会社の網岡卓二相談役に話を伺った。

◎聞き手/佐藤 育男(中日新聞大阪支社 支社長)

技術者はどんな状況でもタフに 尾家氏



国立大学法人九州工業大学学長 尾家 祐二(おいえ ゆうじ)氏
1954年長崎県生まれ。1980年京都大学大学院工学研究科修士課程修了後、日本電装株式会社入社。佐保工業高等専門学校助教授、奈良先端科学技術大学院大学情報科学センター教授、九州工業大学教授、副学長を経て2016年4月より現職。

企業と大学が相互に補完しあう「産学連携」のまさに典型例ですね。他にはどのような事例がありますか。

尾家 共同研究は従来から行っていますが、昨年は新たに「共同研究講座」を設けました。これは、企業の方に本学に常駐いただき学生も参加する形で共同研究を行う制度です。また、企業の人事部長様などに委員を務めていただく「産学連携教育審議会」

「産学連携」について企業側は大学にどのようなことを期待していますか。

網岡 共同開発などの産学連携はニーズ(需要)とシーズ(提供可能な技術)のマッチングがカギになります。九工大では、企業と共同の研究活動について紹介する「九工大世界トップ技術」という書籍を発行しています。「あの開発を九工大がやったのか」と初めて知り驚くような研究も紹介されているので、当社では書籍が発刊されると新規事業担当役員にそれを提示し共同研究につながる可能性を探るよう指示しています。企業としては、九工大が持つ知見を知る機会を提供していただくことを期待しています。

社会での活躍を支える明専会

金属加工学科(現マテリアル工学科)が新設され、加工分野に興味があったので志望しました。私は第一期生です。大げさに言えば、信念とか生き方みたいなものが醸成されるのが大学時代ではないかと思うのですが、そういうことができた良い校風の学舎でした。

世界を意識した教育プログラム

九工大が力を入れている教育活動についてお聞かせください。

尾家 グローバル化する現代社会においては、技術者にはどんな状況にあってもタフに自分の持つ技術やスキルを向上し続け、それらを活用し続ける能力が求められます。本学ではその能力をグローバル・コンピテンシーに定義づけ、グローバル・エンジニアを養成する教育プログラムを推進しています。具体的に、技術者に求められるコンピテンシーの要素を「多様な文化の受容」「コミュニケーション力」「自律的学習力」「課題発見・解決力」「デザイン力」と定義し、海外学習体験(海外就業体験)×グローバル教育(語学教育)×留学生との協働学習を5つの柱として教育を実施しています。マレーシアに海外拠点を設置したのも、こうした教育方針の一環です。平成28年度は517名がこの拠点をはじめ海外での学びを体験しています。

網岡 もともと、九工大がマレーシアプロトタイプ大学にサテライトキャンパスをつくるという情報が入って、マレーシアには弊社もトヨタ自動車もあるのびと肌だのびたので、マレーシアは英語圏のうえ多様な文化があって、学生が自由に勉強したり、友達になつていく。大変素晴らしい国です。

尾家 実際、マレーシア企業でのインターンシップは網岡相談役のご尽力でスタート出来ました。最初のきっかけをつくらせていただき感謝しています。今ではたくさんの方の企業にお引き受けいただき、学生にとって実に貴重な学習の機会になっていると思います。

知的好奇心を刺激する学び

九工大独自のネットワーク

尾家学長は「モノづくりの街」と言われる愛知県など東海地方をどのように見ますか。

尾家 九工大の大学院と学部卒業者のうち、毎年70、80名ほどが東海4県に就職しております。私も大学を卒業して愛知県の自動車部品メーカー「日本電装(現デンソー)」に勤務していました。この地域で仕事をすることを通じて、モノをつくることで社会との繋がりが実感でき、自らが成長するきっかけを教えてくれる街だと感じました。

「明専会」とはどのような組織で、中京支部の支部長である網岡相談役は支部の役割や今後の運営についてどのようなお考えをお持ちですか。

網岡 九工大の学生・卒業生の絆の強さを具現化しているのが「明専会」です。中京支部内には自動車をはじめ飛行機、電機、リニアなど日本を支える産業が集積しています。それを部活メーカー、金型メーカー、素材メーカーといった企業群が支え、そこに数多くの九工大生が所属しています。そうした有機的なつながりのなか、私どもの役割は世代や企業の垣根を越え、同窓生が交流できる機会をつくることだと思っています。地区総会などを開催すると、参加者から「大学を卒業して初めて明専会のおりがたみが分かる」という声がかんかれます。

最後に、尾家学長から工学を志す学生にメッセージをお願いします。

尾家 モノづくりの面白さは、知りたい、できるよになりたい、という好奇心を持つことから始まります。科学、サイエンスは今を知る学問。なのに対し、工学、エンジニアリングは「明日を創る学問」だと思っています。このやりがいのある工学をぜひ九工大で学んでください。



佐藤 育男(中日新聞大阪支社支社長)



企業との連携による人材育成 国立九州工業大学

1909年、4年制の私立工業専門学校「明治専門学校」として開校。21年に官立に移管され、49年に国立九州工業大学となる。教育理念に「技術に堪能(かん)なる士君子」を掲げ、深い専門性、幅広い教養、十分なコミュニケーション力と技術者倫理を備えた、新しい技術の開発・研究にあたる高度専門技術者の育成を目指す。広く産業界から意見を採り入れる「産学連携教育審議会」を創設するなど、企業参加による人材育成に積極的に取り組む。

時流に先んじる自動車を開発 トヨタ車体株式会社

1945年、トラックボデーの専門メーカーとして創業。以来、日本初のスチールキャブ「BX型トラック」や世界初のミッドシップを採用したミニバン「エスティマ」など、時流に先んじる自動車を開発・生産。福祉車両やユニットの開発・生産にも力を注ぐ。2017年4月には自動車生産累計台数3,000万台を達成。一昨年設置されたトヨタグループ製品軸カンパニー体制でミニバン・商用車・SUVなどを手がける「CV Company」の中核を担う。本社・愛知県刈谷市。

九工大で学んで全国へ就職!

ダントツの就職率!!

学部 99.7% 大学院 99.8%

就職先企業の「質」がダントツに高い!

東海地区の主な就職先企業

トヨタ自動車	38名
アイシン・エイ・ダブリュ	34名
アイシン精機	28名
トヨタ車体	14名
アイシン・コムグループ	13名
デンソーテクノ	10名
アドヴィックス	9名
パナソニックエコシステムズ	8名
オークマ	6名
デンソー	6名

●その他 DMG森精機、JR東海、中部電力など (H25年3月～H29年3月学部・大学院卒業生)

100年続く同窓会 明専会のキャリアサポート

母校の先輩から後輩へ、細心・最強のキャリア支援!

導入教育 1年生 明専塾 2年生 明専女子塾 3年生 明専スクール 4年生

九工大プースにも来てね!

Yumenavi LIVE 2017 7.15名古屋会場 ポートメッセなごや

【夢ナビ講義タイトル】
「生命の創り出すナノ構造・タンパク質を観る」 安永 教授
「宇宙への扉を開ける超小型人工衛星」 趙 教授
「ここまで来たゲームAI」 中村 准教授

宇宙システム工学科、始動!

2018年 九工大の学科と入試が新しくなります

衛星開発プロジェクト 放電実験衛星「鳳凰四号」 2016年2月打ち上げ

BIRDS Satellite Project 「超小型衛星5基」 2017年6月打ち上げ

深宇宙通信実験機「しんえん2」 2014年12月打ち上げ

衛星開発プロジェクト 高電圧技術実証衛星「鳳凰弐号」 2012年5月打ち上げ

衛星開発プロジェクト PPT実証衛星「AOBA-VeloxⅢ」 2016年12月打ち上げ